

wonderful world” が世界的な名曲であるように、世界中の人々が感じるのだと思う。小学校高学年になったくらい頃から、僕は世界で起こっている事件について関心を持つようになった。そしてその頃くらいから、この世界に対して、ある種の絶望や悲しみとといった感情を抱き始めた。世界は深刻な環境問題に苛まれていること、様々な原因により世界各地で戦争やテロが起こっていること、世界にはまだ生きていくことすらままならぬい貧困地域があること、そしてそれらによつて人々は苦しみ、死者もたくさんいること。自分以外の世界に視線を向けたとき、そこには想像もつかない悲しい世界が広がっていた。そしてそれにより、僕はその新しい世界についてより深く（あるいは詳しく）知りたいたいと思ふようになった。中学生を経て高校生となり、より多くの視点で物事を見て、考えを深められるようになる。

難民問題など、具体的な問題を調べ、そしてそのたび、惨劇を知り、いまだそのときの悲しみになれることはない。

また新しく知った問題もある。人種や性別、その他様々のものから起こる差別についてである。今世界各地で人種差別に對抗するBLMの活動が行われているが、いまだ差別の問題は根深いと思う。実際自分が一人で海外に行った際、保安検査場で、前に行く白人の家族と全く違った対応をされたことがある。その女性は黒人で、それまで差別をもし受けたことがあ

るとあるのだとしたら、なぜ同じことを他の人に対してしてもしてしまうのか、まだまだ問題の本質を知るには程遠いものだ。気づいた瞬間だった。これから多文化が入り混じる社会となる中、宗教や人種など様々なことが原因で争いが起こるのだろうと考えたとき、僕はとても悲しくなり、諦めに近い感情を持ってしまふことが、これもまた度々ある。

しかし、だからといって何もせずは無為に

、

日々を過ごすのはあまりにも野暮だと思う。
今の、そしてこれからの時代を生きる一人の
人間として、どうすれば平和に、人々が幸せ
に生きていけるかを常々考えている。
その一つの答えを見つけたのは、ニュージー
ランドに短期留学をしたときのことだった。
たった3週間のステイの2週間目くらいに、
ホストのお婆さんに勇気をだして人種差別や
その他価値観の違いについて話しかけたとき
だった。まだ2回ほどしか会っていなくて、
ほとんど関係はなかったにも関わらず、見て
いたテレビを消してまですぐに応じてくれた。
ニュージーランドと日本の戦争など、踏み込
んだ話から始まったが、嫌な顔ひとつせず詳
細に教えてくれた。ニュージーランドは特に
人種や性別に対する価値観が寛容なことにつ
いて質問すると、そのお婆さんが子どもものこ
ろから移民が沢山入ってきて、実際に関わる
うちにみんな同じ人間だということに気付い
たからだ。と教えてくれた。そこで、日本人は

。

。

冷たい人が多いから悲しい体験をすることも
多いと言うと、お婆さんは本当に心配してく
れ、僕はそれまでの親切さも相まって思わず
泣いてしまった。なぜそんなにほぼ見ず知ら
ずの人間に優しくなれるのか、自分が探して
いたものが見つかったような気がした。
どのように平和が出来上がっていくかにつ
いて、まず自分たち個人単位でできるのは、
他人に寛容になりその人を認めようとすること
とだと思ふ。そして、他人への愛情を持つこ
と。自分から他人へ愛情をもって接すれば、
その人からも愛情が、自分以外の誰かであつ
たにしろ、受け継がれていくと思ふ。
高校生になつてからは、世界の平和という
テーマをもつて、様々な分野のことについて
調べたり、国際交流も精力的に行つたりして
いる。この混沌とした世の中に絶望してしま
うこともあるが、誰もが幸せに、平和に生き
ていける世の中をつくるため、これからも活
動を続けていこうと思ふ。